

日本医史学雑誌二十六卷総目次

原 著

- 奈良時代の医療の実態……………杉田 暉道…二五〇～二五三
 出島蘭館医カスペル・シヤムベルゲルの生涯について……………ヴォルフガング・ミヒェル…二〇一～二〇六
 エディンバラ王立教貧院病院とアグネス・ベッチ……………平尾真智子…二二〇～二二六
 Zum Einfluß philosophischen Begriffe menschlicher Natur auf Medizin, Hygiene und Psychotherapie ……グレゴル・パウエル…二五五～二六四
 仏教と病氣・医療とのかかわり——とくにインド仏教について——…杉田 暉道…二六五～二六六
 研究ノート
 吉田長淑の養子関係と宇田川玄真……………平野 満…二三三～二三八
 明治初期東京大学医学部卒業生動静一覽(二)……………小関 恒雄…二九〇～二九七
 統計的にみた天保期名古屋の医師像……………山内 一信…二七九～二八〇
 灸寺・羽栗病院訪問記……………岡田 靖雄…四〇一～四〇二

広 場

- 緒方富雄先生とエスペラント……………戸田 清…二四七～二五二
 医学史と宛字……………伊藤 貞男…二五三～二五六

史料との出会い

史料との出会い

—歩兵屯所医師取締手塚良仙とその一族—

資 料

- 江戸幕府の医療制度に関する史料(一)……………香取 俊光…二五〇～二六二
 —土岐長元家由緒書など—……………池田文書研究会…二六三～二六六
 池田文書の研究(三)……………中村 昭…二七〇～二九四
 蘭方口伝(シーボルト驗方録)……………江戶幕府の医療制度に関する史料(三)
 —河野平之丞家由緒書など—……………香取 俊光…二九五～三〇四
 池田文書の研究(四)……………池田文書研究会…三〇五～三二〇
 江戸幕府の医療制度に関する史料(四)……………香取 俊光…三二一～三三〇
 —文化八年六月禄『官医分限帳』—……………栗原萬理子…三三九～三四四
 和刻本漢籍医書出版総合年表……………小曾戸洋、関信之、栗原萬理子…三四五～三四九

随 想

- 医史学と私……………大滝 紀雄…二九一～二九六
 医史学と私……………福島 義一…二九八～三〇三
 医史学と私……………梶田 昭…三〇四～三〇九
 医史学と私……………杉田 暉道…三一〇～三二〇
 医史学と私……………土屋 重朗…三二一～三三〇
 医史学と私……………江川 義雄…三三二～三四八

第91回日本医史学会総会演題目次

特別講演

西洋医書の翻訳用語について……………大友 信一…一〇三

会長講演

消化管運動の研究の歴史……………中山 沃…四〇八

一般口演

1 先天性梅毒における歯の形態異常の
研究史……………本間 邦則…九〇二

2 『聖濟総録』における歯牙疾患の分類
……………戸出 一郎…一〇二

3 医師山上兼輔……………田中 助一…一三〇

4 ヴェサリウスのファブリカについて
……………酒井 恒…一五〇

5 唐代史における皇帝と医学
——太宗の場合——……………山本 徳子…一六〇

6 中国医学と道教(X 血湖説)……………吉元 昭治…一六〇

7 中国古典における脾病、小腸病、
大腸病の概念について……………高島 文一…一三〇

8 国宝宋版『史記』扁鵲倉公列伝における
幻雲注の引用医書について……………関信之、小曾戸洋、真柳誠…一三〇

9 類経本『素問』『靈枢』の付訓編刊者について……………三〇三

10 ケンの渡来と津堅一粒金丹……………小曾戸 洋…一六〇

11 クモを用いる日本の民間療法……………松木 明知…一六〇

12 学術用語のカタカナ書きに対する一試論……………浜田善利、吉倉眞…一六〇

13 『医心方』の伝写について(X)
——関連書目——……………柴田幸雄、太田隆男、中塚正博…一三〇

14 『本草色葉抄』所引の医学文献……………杉立 義一…一三〇

15 曲直瀬道三の『遐齡小児方』について……………真柳 誠…一三〇

16 関東船橋氏について……………広田 嘩子…一七〇

17 前田慶寧の病状記録について……………奥富 敬之…一七〇

18 本間玄調元且試筆の詩意について……………寺畑 喜朔…一七〇

19 明治戊辰戦争越後口派遣会津藩従軍
医師の記録について……………山中 太木…一七〇

20 石黒忠應の家塾跡と名倉家……………蒲原 宏…一七〇

21 明治七年山県郡医師調査について……………我部 正彦…一七〇

22 済生学舎廃校の歴史……………末田尚、進藤岱三…一七〇

23 私立東京医学校(一九〇四—一〇)について……………唐沢 信安…一七〇

24 生誕百年を迎えた生理学者加藤元一……………横川 弘藏…一七〇

……………古川 明…一七〇

25	精神科看護史の諸問題……………岡田 靖雄… 頁〇〇		
26	帝国大学医学部薬学科の発展……………中室 嘉祐… 頁〇三		
27	難波抱節旧蔵「温知堂文庫」について……………三浦 豊彦… 頁〇四		
28	岡山県医学校旧蔵、田口和美著 『解剖攬要』について……………中村 昭… 頁〇五		
29	第三高等中学校医学部の講義(第二報) ……………大滝 紀雄… 頁〇六		
30	筒井八百珠(一八六三—一九二二) —その生涯と業績—……………長門谷洋治… 頁〇七		
31	トウキョウディデス『戦史』における ギリシア医学の影響……………今井 正浩… 頁〇八		
32	Engelbert Kaempfer の日本医学に関する 新しい資料……………W・ミヒェル… 頁〇九		
33	いわゆる『ターヘルアナトミア』の蘭訳者 ディクテンとその学統……………石田純郎、H・ボイケルス… 頁一〇		
34	フーヘランドの『長生術』について……………吉原 瑛… 頁一〇		
35	中期のアンブロアズ・ペレ……………大村 敏郎… 頁一一		
36	『鴉篤児(ワートル)薬性論』の異版……………宗田 一… 頁一二		
37	ロイアル・コレジズについて……………栗本 宗治… 頁一三		
38	佐賀県立病院(好生館)の御雇外国人 医学教師……………高安 伸子… 頁一四		
39	長崎梅毒病院医師G・B・ニュートンの死		
40	……………深瀬 泰且… 頁一五		
41	ブライト氏病の日本への最初の紹介について……………会田 恵… 頁一六		
42	小林義直とその訳書……………渋谷敏、谷津三雄… 頁一七		
43	吳建について……………江川 義雄… 頁一八		
44	湖柳生(野口英世)と歯科レントゲン ……………谷津三雄、渋谷敏… 頁一九		
45	野口英世箕面銅像搬入経路と除幕者 ……………石原 理年… 頁二〇		
46	須藤五百三—魯迅最後の主治医—……………泉 彪之助… 頁二一		
47	近代朝鮮における女子医学生について……………三崎 裕子… 頁二二		
48	幻に終わった国際連盟の漢方薬研究(第一報) —国際連盟保健委員会における漢方薬に 関する討議—……………津谷喜一郎… 頁二三		
49	大東亜戦争における野戦病院……………黒澤 嘉幸… 頁二四		
	京都における眼科流派と秘伝書……………奥沢 康正… 頁二五		